

2017年4月3日(月)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 お待たせをいたしました。

定刻の時間となりましたので、ただいまより平成29年4月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

最初にお知らせを申し上げます。記者クラブのほうに異動がございまして、本日初めてこの会見に参加されます記者の方をご紹介します。

【記者】 (挨拶)

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行していきたいと思っております。

なお、ご質問の際は、お手数ですが、ご自席のマイクのスイッチを入れていただき、ご質問の後は切っていただきますようお願い申し上げます。

終了は14時30分を予定いたしております。ご協力よろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 皆さん、こんにちは。

新しい年度になりまして、副市長も片山副市長を加えて2人体制となりました。また、市の組織変更も行いまして部長も1人ふえております。新しい体制で一生懸命邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 事業発表をお願いいたします。

【市長】 きょうの事業発表は2つあります。一つは、「景観まちづくり刷新モデル地区」の選定ということと、もう一つは平成29年度敦賀市職員採用候補者試験（医療職）の実施についてであります。

1つ目の「景観まちづくり刷新モデル地区」の選定に当たりましては、去る3月31日に国の平成29年度予算で創設されました国土交通省の景観まちづくり刷新支援事業の概要が発表され、敦賀市が全国で10都市の景観まちづくり刷新モデル地区に選定されました。

本事業は、景観の面的整備に着目した政府初の公共预算であり、3年間で集中的に整備することで町並みの景観を刷新させるモデル地区を国が選定し、エリア内における景観に関する事業に対し最大2分の1の国庫補助を受けられるものです。実施可能となる事業としては、景観の刷新をキーワードに、建築物の外観修景、プロムナードの整備、屋外広告物の集約化、広場や駐車場の整備などインフラ整備をパッケージ化し景観に特化した面的な整備を行うなど、観光地としての魅力向上に資する事業であります。

北陸新幹線敦賀開業に向けた受け皿づくりを進める本市にとって非常に強い追い風となるこのモデル地区の選定を心から喜んでおります。この大きなチャンスを十分に生かせるよう、敦賀駅周辺の景観形成や人道の港敦賀を発信する金ヶ崎周辺の施設整備などの各種事業に取り組んでまいります。また、世界へ発信できる魅力的な景観観光地域づくりを目指して、官民一体となって地方から観光立国の実現を目指してまいります。

2つ目ですけれども、平成29年度敦賀市職員採用候補者試験（医療職）の実施についてということです。

平成29年度敦賀市職員採用候補者試験を別紙のとおり実施します。今回募集する職種は、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、助産師及び看護師。それぞれの採用予定人数は別紙のとおりであります。受付期間は4月7日金曜日から4月21日金曜まで。第1次試験は5月7日日曜日、市立敦賀病院で行います。第2次試験は5月下旬、最終合格発表は6月上旬を予定しております。

発表項目につきましては以上であります。

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

それでは、ただいま発表いたしました項目について質問を受けたいと思います。最初に、幹事社さん、よろしくお願いします。

【記者】 1点だけ質問させていただきます。景観まちづくり刷新モデル地区のことなんですけれども、3年間集中的に整備するということなんです。これで具体的にどのような効果が見込まれているのか、期待しているのかというところを説明していただけますか。

【市長】 担当の部長が張り切っていますので、部長のほうから答えます。

【産業経済部長】 それでは私のほうから、この事業の効果と、あとメリットの部分で説明させていただきます。

大きくメリットについては3つあると考えております。

今回この10地区に選ばれたということで、北陸新幹線、やはり敦賀開業に向けた受け皿づくりの各種事業に国庫財源を充当できるというのが非常に大きい部分になってございます。特に29年から31年の3カ年で集中的にできるということがございます。

2つ目には、観光庁、文化庁などの関連する国庫補助等にも活用が期待されるという部分がございます。

そして3点目は、やはり全国から10地区に選ばれたということで、希少価値とか、あと各種メディアへの露出による本市の認知度の向上、そして本市及び人道の港のブランド化への第一歩であると認識しているところでございます。

特に駅周辺の整備、そして国道8号、そして金ヶ崎周辺、そういったところの整備がスピード感を持ってできるということが非常に大きなメリットと考えております。

以上です。

【記者】 追加でお伺いしますけれども、関連する省庁の補助なんかにも期待できるというような説明がありましたけれども、これ以外に何かそういう申請しているものであるとか、これから申請するものはあるのでしょうか。

【産業経済部長】 こちらのほうは、今回、31日付で発表がございましたので、今後そういった補助要綱の確認とか、あと観光庁、文化庁の部分につきましてもどれが使えるか、そういった部分は今後そういった要綱がはっきりしてから敦賀市としても活用を考えていきたいと考えております。

以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。発表項目につきまして質問がありましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 モデル地区の件で1点だけ。「人道の港」交流施設というのはどういう施設を

想定しているか伺えますか。

【産業経済部長】 人道の港ムゼウムにつきましては、今後設置いたします金ケ崎周辺施設整備策定委員会におきまして、既存の施設の拡充か新設などあらゆる方向から検討した上で、決定した事業内容に応じて、この景観まちづくり刷新支援事業の活用を考えていきたいと考えております。

以上です。

【記者】 この中でも整備事業というふうに一応挙げていると思うんですけども、そのイメージを聞きたいんですが。

【産業経済部長】 全体のイメージでよろしいでしょうか。

お手元に配付をさせていただいていると思いますけれども、先ほども申しましたとおり、駅周辺で申しますと、こちらのほうは駐車場、立体駐車場の整備の部分、それとあと本町の国道8号の部分でいきますと、それに付随する道路空間の美装化、それとか外観修景、そういった整備。それと、ありました金ケ崎周辺の駐車場とムゼウムの拡充及び新設。そういったところが決まり次第、そういう部分に活用していきたいと考えています。

以上です。

【記者】 渚上市長に改めて、このモデル事業への受けとめと、例えば、この事業が進むことによって具体的にインバウンドの観光客、外国人向けとか、こういったところに魅力が高まっていくというふうに考えているか、お聞かせください。

【市長】 この刷新事業をお認めいただきましたので、それについては、今までやろうとしていたことから新たに違うことが起きるのではなくて、今までやろうとしていた新幹線の受け皿づくりがさらに加速して前に進むものだというふうに受けとめています。その中で外国人観光客という面で言いますと、やはりこれが選ばれましたよということで一つの魅力というか、一回行ってみようという気持ちになられたらなというふうに思っています。ほかの市町、10都市ありますけれども、敦賀にご縁の深いところもたくさんありますので、そういうところとも連携がとれるようになるんじゃないかなということも思っています。

【記者】 ご縁が深いところというふうにおっしゃいましたけれども、具体的にどういった地域とかを想定しているかというのをお聞かせください。

【市長】 構成市町ですか。ご縁があるところですか。ご縁があるところは、姉妹都市であります水戸市がございます。人道の港、杉原千畝ルートということで高山市がございます。あとは、今、北前船の寄港地ということで日本遺産登録を目指している上で函館市ということもございますので、ご縁があるなというふうに感じています。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと行きたいと思います。こちらも幹事社さん、よろしくお願いします。

【記者】 副市長が2人体制になりましたけれども、役割分担を教えてくださいませんか。

【総務部長】 副市長さんの役割分担をということで、事務について読み上げさせてもらったほうがよろしいですか。

今回の副市長2人体制になったということでの役割分担でございますが、まず副市長が両方ともに担任するという事務といたしまして、1番目が市の総合企画調整及び開発に関する事務、2つ目は職員の任免、給与等人事に関する事務、3つ目、予算及び決算に関する

る事務、4つ目は市議会提出議案に関する事務、5つ目は規則及び訓令の制定、改廃に関する事務、そして特に重要事項に関する事務については両副市長が担当するというぐあいに定めております。

そして、第1副市長でございます片山副市長が担任する事務といたしましては、まず企画政策部に関する事務、2番目、産業経済部に関する事務、3番目、建設部に関する事務、4番目、都市整備部に関する事務、5番目が水道部に関する事務、6番目が会計課に関する事務、7番目として監査委員事務局の職員に補助執行させる事務、8番目として農業委員会の職務に補助執行させる事務、9番目として嶺南広域行政組合に関する事務を片山副市長が担任する事務ということでございます。

次に、第2副市長でございます中山副市長が担任する事務といたしましては、1番目、危機管理に関する事務、2番目、総務部に関する事務、3番目が市民生活部に関する事務、4番目が福祉保健部に関する事務、5番目が敦賀病院に関する事務、6番目、教育委員会事務局の職員に補助執行させる事務、7番目、選挙管理委員会事務局の職員に補助執行させる事務、8番目、公平委員会の職員に補助執行させる事務、9番目、固定資産評価審査委員会の職員に補助執行させる事務、10番目が議会事務局の職員に補助執行させる事務、11番目として敦賀美方消防組合に関する事務というぐあいに分けさせていただいたところでございます。

【記者】 今読み上げていただいたんですけれども、その資料は紙でいただくことはできるのでしょうか。

【総務部長】 大丈夫です。また後ほどお配りさせていただきます。

【記者】 確認なんですけれども、新幹線であるとか原発は片山副市長の担当になるということでしょうか。

【総務部長】 そのとおりです。

【市長】 事務分掌については、こうやって一応決めましたけれども、運用しながらまたそれぞれに異動したり、2人とも両方とも担当したり、そういうことはフレキシブルにやっていくことになると思います。

【記者】 2点目の質問なんですけれども、先週、もんじゅの立地する白木地区で国による説明会があったんですけれども、白木は、もんじゅの最も近い場所なんですけれども、ほかの地区でもこのような説明会を市として求めていくというようなことは考えておりますでしょうか。

【市長】 今、敦賀市として、そういう各地区ごとに説明をしてくださいということは申し上げておりません。もし必要があるという地区が出てきたら、そういうことはお願いしていこうと思います。

【記者】 確認ですけれども、現時点でそういう説明してほしいというようなことは無いということですかね。区のほうからは。

【市長】 はい。

【記者】 新しい庁舎の移転のことでお伺いしたいんですけれども、市長は、この前の議会でプラザ萬象の跡地も候補地として一つ出されたんですが、今の現状でも、やはりあそこは有力な候補地というお考えでよろしいでしょうか。

【市長】 前回のときに申し上げましたように、国の要綱がはっきりすると思いますので、

それまでは前回申し上げたとおりです。

【記者】 期日としては、やはり9月までに決めたいというようなお考えはあるということでしょうか。

【市長】 タイムリミットの、最終的には9月ということがあると思います。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。ご質問がありましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 今の庁舎、プラザ萬象への移転の話なんですが、当初、市はこの今の場所で建て替えが有力とされていたと思うんですが、どういう経緯で市長の中でプラザ萬象というのが出てきたのでしょうか。

【市長】 もともと市庁舎がこの場所が優位だということについては、今建っている場所ですし、ほかに候補地というのは余り考えてなかったんです。2年かけてゆっくり候補地を選定すればいいなというふうに思っていましたけれども、ご存じのように、国の予算措置の関係で早く決めなくてはいけない。しっかり検討すべきだという中でプラザ萬象が浮かんできたということです。ですから優位だということで、特にほかに何にもまだ検討してなかったということが正直なところかなと思いますけれども。

【記者】 それで、プラザ萬象という具体的な場所が出てきたのはなぜですか。

【市長】 改めて敦賀市内で適当な場所ということを見回したときに、プラザ萬象ということが一つの候補地として上がってきたということです。

【記者】 議会でも市長、中心市街地の活性化云々とおっしゃっていましたが、そのあたりもう一度、どういう理由であの場所かというのを教えていただけますか。

【市長】 総合的に考えることが必要になってくるとは思いますけれども、一つは中心市街地に近いというのはあると思います。もう一つは、ここで建て替えた場合に、建て替えている間の利便性というのが非常に損なわれるだろうというのがあります。そういうことを含めて考えていくと、あの場所がいいのかなということが一つあります。

もう一つの私ども抱えている課題として、萬象と市民文化センターと、それからきらめきみなと館という3つのホールがあるわけなんですけど、これを何とか2つにしたいなという課題を持っています。ただ、一番古いのは市民文化センターですけども、音響がいいんですが古いんですね。そのかわりに萬象ができるかというと、できません。萬象はというと、建て、平成2年ですから二十六、七年たっていますけれども、そうしたときに、大規模リニューアルの時期なので8億ぐらいかけないときちんと整備ができないという事情もありますので、予算措置の中で少しメリットがあるんだっただけならするべきなんじゃないかなということを思っています。

【記者】 あと2つ。一つは、ホールを3つを2つにする理由というのは財政的な面からでしょうか。

【市長】 そうです。3つもある必要はないと思いますので、2つでいいと思っています。その中で、やっぱりそれぞれ特徴がありますので特徴を生かしながら集約できないかという課題があるんですが、候補地の場所も含めて新たに建てて壊すということはできませんから、そういうことも課題として持っていたわけなんです。公共施設管理計画の中で持っていますので、そういうところを含めて総合的に浮上したということです。

【記者】 最後に、市長の考えでは、萬象の今の建物を全部壊して新しく庁舎を建て替え

るというイメージですか。

【市長】 まだ決まってないんです。いろんな可能性を検討することになろうと思います
が、例えば駐車場のところに建てて、移転して、またこちらに建てて壊すとか、組み合わせ
はいろいろあると思いますので。今の場所に建てかえるということも別に否定はしませ
んけれども、いろんな可能性はあろうかと思います。

【記者】 市庁舎の建て替えに絡んで、先月末に消防組合議会のほうで、こちらの消防庁
舎も大分古いので建てかえの方向で検討しているというような消防長の答弁があって、市
庁舎の建て替えと密接に絡んでくるという認識だったんですが、4月に説明会を開く中で、
この消防庁舎の建て替えも同時に案として出していくのか、全く別物と考えるのか、市長
の考えをお聞かせください。

【市長】 消防組合ですので敦賀だけで判断できないものですから、それについては美浜
町さん、また若狭町さんとの協議の中で決定していくべきものですので、今の点ではそれ
を絡めてお話しすることはできないというのが状況かと思います。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして4月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後1時54分 終了